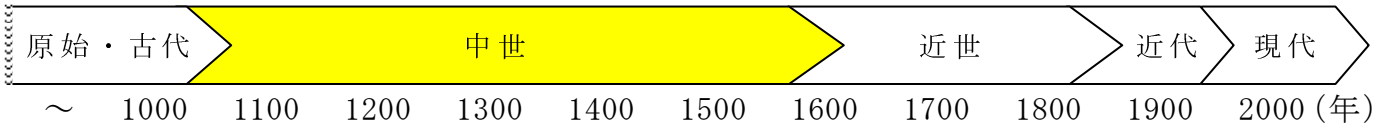
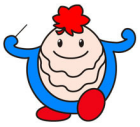
6　戦国大名とひろしま　～毛利元就～



1　毛利元就とはどのような人物でしょうか？

毛利元就（1497～1571）は，現在の安芸高田市吉田町にあった郡山城を本拠地として，中国地方を統一した戦国大名です。

元就は，安芸国（現在の広島県西部）の国人（地頭や荘官[1]を由来とする地域に根ざした領主）から中国地方のほぼ全域を支配する戦国大名になりました。



なぜ，毛利元就は中国地方全域を支配するまでに力をもつ戦国大名になったのでしょうか？

毛利元就（毛利博物館蔵）

2　毛利元就が支配する前の広島はどのような状況だったのでしょうか？

現在の広島県にあたる地域には，安芸国と備後国の二つの国がありました。

右の勢力図を見ると安芸国の毛利氏のまわりには，多数の国人が領地をもっていたことが分かります。

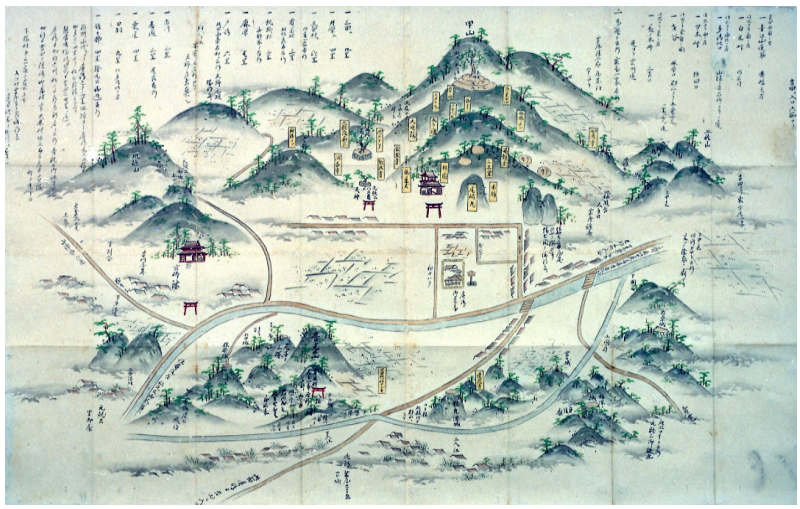
また，この頃，山陰では尼子氏が９か国を支配する戦国大名となり，山陽から九州北部にまたがっては，山口の大内氏が勢力を伸ばしていました。

戦国時代の広島の勢力図

中国地方では，この尼子氏と大内氏が大きな勢力となり，争いを繰り返していました。このため，安芸国や備後国の国人たちは，自分の領地を守るために尼子氏と大内氏の二つの勢力のどちらにつくか選択をせまられ，互いに協力したり対立したりすることを繰り返していました。

3　毛利元就はどのようにして勢力を強めていったのでしょうか？

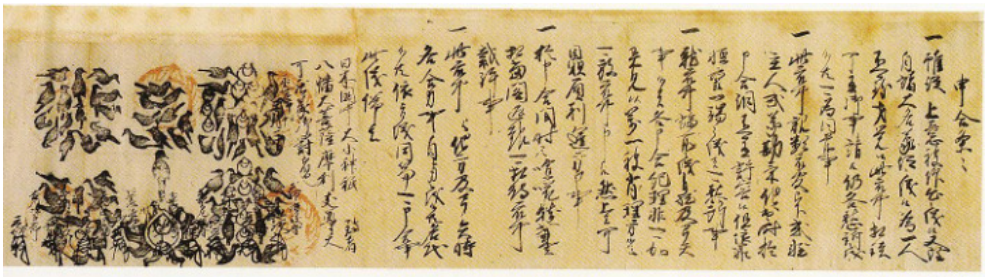
1523(大永３)年，元就は27歳のときに郡山城主になりました。当時，毛利氏は，安芸国の国人の一人で，領地も現在の安芸高田市吉田町周辺のせまい範囲でした。



郡山城跡下古図（安芸高田市歴史民俗博物館蔵）

元就は，北からの尼子氏と南からの大内氏の対立の間にはさまれて悩みますが，安芸国の国人たちと協力して戦うことで，領土・領民を守り，着々と勢力を伸ばしました。

「安芸国衆連署契状」を読むと毛利氏は，周辺の国人たちと対等な関係で契り(約束)を交わし，共同で利益を守り，秩序を維持しようとしていたことがうかがえます。こうした国人連合が素地となって毛利氏が戦国大名になるのです。



安芸国衆連署契状写　天野讃岐守興次　阿曽沼近江守弘　（山口県文書館蔵）

□天野，毛利，平賀，小早川，阿曽沼，高橋，野間，吉川などの有力な国人たちが，幕府や大内氏などからの要求に結束して対応することや個別の地域紛争を回避することを申し合わせています。

1525(大永５)年，元就は尼子氏から離れて大内氏と手を結び，安芸・備後の軍事を指揮しました。1529(享禄２)年には，尼子氏と組んだ高橋氏を大内氏らと攻め滅ぼします。これにより元就は，高橋氏が果たした安芸と石見の国人連合の主導者の地位と高橋氏の広大な領地を継承します。

この毛利氏を1540(天文９)年，尼子氏は攻撃します。毛利氏は，郡山城にこもって迎え撃つとともに，尼子氏の連絡補給路を絶ち，大内氏や国人らの援助を受け，翌年１月には尼子氏を撃退します。

年	おもなできごと
1497	郡山城で生まれる
1500	兄が毛利家を継ぐ
1511	元服し元就と名のる
1516	兄が亡くなり，兄の子である幸松丸が毛利家を継ぐ
1517	初めての戦いに参加する
1523	幸松丸が亡くなり，毛利家を継ぐ
1525	出雲の尼子氏から離れ，長門・周防の大内氏につく
1529	高橋氏を滅ぼし，地位と領地を継承する
1540	尼子氏に郡山城を攻められる(郡山合戦)
1541	大内氏の援軍を得て尼子氏を撃退する
1544	三男隆景が竹原小早川家を継ぐ
1546	長男隆元に毛利家を譲る
1547	次男元春を吉川家に養子に出す
1549	元春が吉川家を継ぐ
1555	陶晴賢を厳島で破る(厳島合戦)
1557	大内氏を滅ぼし，長門・周防を支配下におく
1563	隆元が亡くなり，孫の輝元が毛利家を継ぐ
1566	尼子氏を滅ぼし，出雲・伯耆を支配下におく
1571	75歳で亡くなる

毛利元就の年表

同年５月には，安芸の守護大名であり，尼子氏に支えられていた武田氏が滅亡すると，広島湾付近にも勢力を拡大していきました。

その後，元就は，瀬戸内海に水軍(2)を持っていた小早川氏に三男の隆景，安芸・石見に勢力を持っていた吉川氏に次男の元春を養子として送り込み，それぞれの家を継がせました。これにより，元春は山陰のおさえとなり，隆景は瀬戸内海で水軍の統率に活躍しました。これは「毛利の両川体制」と呼ばれ，毛利氏が繁栄するための基礎となりました。

吉川元春館跡（北広島町教育委員会提供）
□吉川元春の館の石垣です。

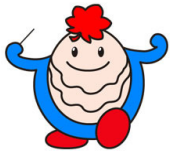
高山城跡と新高山城跡（三原市教育委員会提供）
□右が小早川氏の城であった高山城跡です。
□左が小早川氏を継いだ隆景がつくった新高山城跡です。

元就は，大内氏から離れ，広島湾の大内方の城を奪うとともに，政治・経済・宗教・軍事上の拠点となっていた厳島を占領しました。一方，大内氏の当主義隆は，重臣の陶晴賢に倒され，大内氏の実権は陶氏が握りました。元就は，厳島の奪回を試みる陶氏に対して，厳島の城（宮尾城）を改修して戦いに備えると，1555（弘治元）年９月，陶氏と厳島で戦って勝利しました（厳島合戦）。

その後，元就は，1557（弘治３）年に山口の大内氏を滅ぼし，ついで1566（永禄９）年には山陰の尼子氏を滅ぼしました。そして，中国地方のほぼ全域を支配する日本屈指の戦国大名にのしあがりました。

元就の死後は，孫の毛利輝元が叔父の吉川元春と小早川隆景に支えられ，毛利家の繁栄を守りました。

毛利元就が戦国大名になった経緯や理由について，調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！



【注】
(1)荘園領主が，年貢の取り立てや荘園の管理のために任命した役人
(2)海上の戦闘を行う軍隊や兵力，海賊。毛利水軍は，武田氏の水軍をもとに，小早川水軍，村上水軍などを取り込み，次第に兵力を強めた。

【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

○毛利元就の教えといわれる「三矢の訓」や「百万一心」について調べてみよう！
・「三矢の訓」の由来といわれる「三子教訓状」とは，どのようなものでしょうか。
・「百万一心」とは，どのような話でしょうか。
○毛利元就の子どもである吉川元春や小早川隆景について調べてみよう！
・吉川元春館跡の発掘調査でどのようなものが発見されたのでしょうか。
・小早川隆景の水軍や瀬戸内の水軍はどのような働きをしたのでしょうか。
○毛利氏と織田信長や豊臣秀吉との関連について，調べてみよう！
・織田信長が石山本願寺を攻撃した際，毛利氏はどのように行動したのでしょうか。
・豊臣秀吉が天下統一を行った後，毛利氏は秀吉のもとでどのような役割を果たしたのでしょうか。

毛利元就の子どもの吉川元春や小早川隆景について調べてみてもおもしろそうだな。

◇安芸高田市歴史民俗博物館
住所：安芸高田市吉田町 278-1　TEL：0826-42-0070　ＨＰ
※原始から近世の歴史，特に中世では毛利元就の資料が多く展示されています。
◇戦国の庭歴史館
住所：山県郡北広島町海応寺 255-1　TEL：0826-83-1785　ＨＰ

【もっと知りたい！郷土の歴史】

サンフレッチェ広島と毛利元就　～三矢の訓～

サッカーチーム「サンフレッチェ広島」の名前の由来を知っていますか。「サンフレッチェ」は，日本語とイタリア語を組み合わせた言葉で，日本語の「三(サン)」とイタリア語の「矢(フレッチェ)」を合わせて作った造語で，「三本の矢」という意味です。

「三本の矢」とは，「三矢の訓」が起源となっています。これは，毛利元就が子どもたち(隆元，元春，隆景)に「今までのように三家がまとまっていれば，国中から足元をすくわれることはないよ」と，兄弟が仲良くするよう説いた長文の手紙を書いたことに由来しています。この手紙が「一本の矢は折れやすいが，三本重ねれば折れない」という「三矢の訓」のもとになりました。

元就が子どもたちに宛てたこの手紙を「三子教訓状」といいます。元就は，この手紙で次のようなことを記しています。一つ目は，毛利家や毛利家を継いだ隆元を第一に考え，兄弟が力を合わせること。二つ目は，なくなった妻や娘への思い，乱世にあっての自分の心境や信仰に関することなど元就の気持ちについてです。元就は，その他にも，どのようなことを手紙に書いたのか，調べてみましょう。

サンフレッチェ広島の名前って毛利元就と関係していたんだ！みんなは広島東洋カープの名前の由来って知ってる？